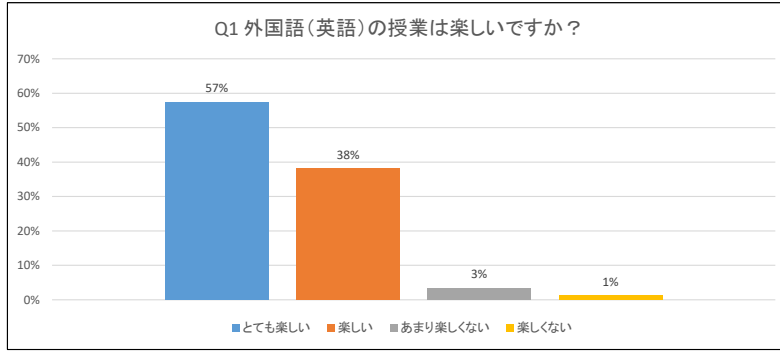
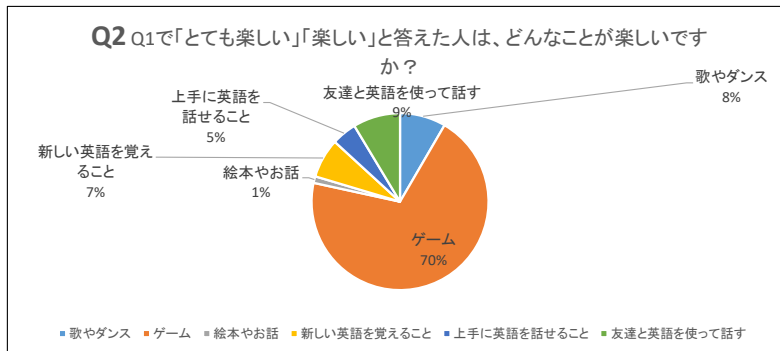


令和7年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(豊福小)



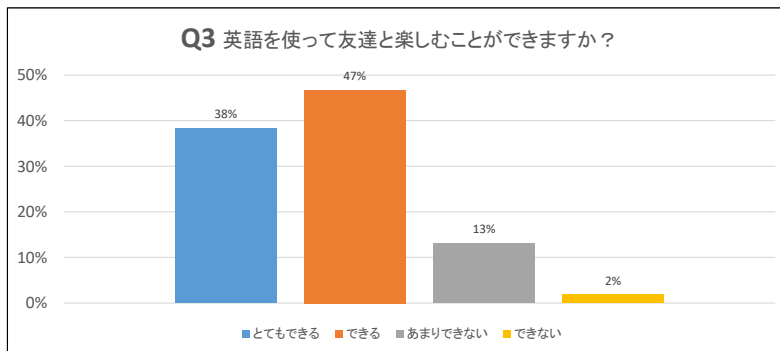
【Q1について】

9割以上の児童が外国語の授業を楽しんでいる。楽しさが学びにつながるような授業づくりを今後も継続して行っていく。



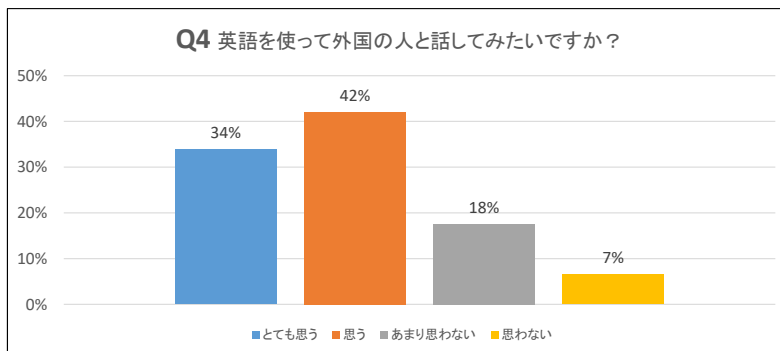
【Q2について】

7割の児童がゲームが楽しいと感じている。また、昨年度よりも、新しい英語を覚えることを楽しいと感じている児童の割合が増えている。一方で、「友達と英語を使って話す」ことが楽しいと感じている児童は1割弱にとどまっている。友達と英語で話すことが楽しいと感じることのできる授業づくりの工夫が必要である。



【Q3について】

約8割の児童が英語を使って友達と楽しむことができていると感じている。一方で、2割弱の児童が否定的にとらえていることを念頭に置きながら、要因を把握し個別のサポートをしたり、話す練習の場の工夫をしたりすることで改善を目指したい。英語を話すことへの抵抗感を少しでもなくしていく取組が必要である。



【Q4について】

約8割の児童が外国の人と話すことに意欲的である。一方で、約2割の否定的にとらえている児童がいる。その要因を把握し、授業にいかしていく必要がある。例えばALTとの英会話の交流を増やしたり、英語のみで伝え合う機会を設定したりするなど、外国の人と交流する機会を意図的に取り入れていく必要がある。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

子供たちが、楽しく英語を学んでいることが伝わってきた。友達と話したり外国の人と話したりする機会を楽しみ、間違いを恐れず前向きに英語を使ってほしいと思う。今後も外国語に関する学習の機会を維持して行ってほしい。

【考察・今後の展望等】

英語を楽しんでいる児童は多い。「英語を使って外国の人と話してみたいですか」の問いに対して、約8割の児童が肯定的にとらえていることから、ALTとの交流を積極的に行ったり、国際交流の機会を設けたりしていきたい。そのような工夫を行うことにより、話すことへの抵抗が減り、実用性のある教育につながると考える。